



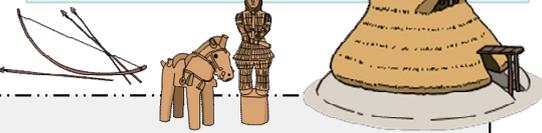
静岡市立番町小学校

出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年7月20日(木)



「実際に体験しながら学べて、子どもたちのより深い学びへとつながりました。」

静岡市立番町小学校の6年生100人が、古代の歴史体験授業で、土器の分類や石器による試し切りなどの体験活動を通して、当時の人々がどのように生活していたかを学ぶ目的で、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験



縄文土器・弥生土器・須恵器の3種類の土器を、色や文様、厚さなどをたよりに分けました。縄文土器は比較的わかりやすく、スムーズに分けられました。弥生土器と須恵器の区別がつきにくく苦労しました。焼き方などの説明をすると、違いに納得し分けるスピードが上がりました。

「縄文土器は見分けるのがわかりやすかったけど、弥生土器と須恵器が似ていてわかりにくかった。」



石器の試し切り体験



打製石器、磨製石器、黒曜石などの石の役割を学習しました。次に黒曜石で新聞紙や野菜を切ってみました。とても切れ味が良く、石で物が切れることに驚いていました。黒曜石がどこでもとれる石ではないことも知り、大変貴重な石であることを認識しました。

「石で紙や野菜を切ることができるなんてびっくりした。」



火起こし体験

火起こしの歴史について簡単に説明しました。TV番組などで見たことがある児童は、もみぎり法や弓ぎり法等の言葉は知っていました。舞ぎり法での火起こしに、苦しみながらも楽しんでチャレンジしました。初めは、弾み車が調子よく回らなくて苦労しましたが、次第にコツをつかみ上手に回すことができると、火種を作ることができました。『ロングフーフー』も頑張り、火を起こすことができました。

「昔の人はすごくたいへんだな。」「火種に息を吹きかけるのが難しかった。」



先生方の感想

「教科書の学びを体験とつなげていくことで、子どもたちがより歴史に興味関心をもったり、学びを深めたりすることができました。実際に体験しながら学べて、子どもたちのより深い学びへとつながりました。子どもたちが授業で習っている内容に沿っており、わかりやすく、子どもたちが興味深く聞くことができました。本当にありがとうございました。」

